

## 「面接の意図」

選抜区分	平成 31 年度 （選抜区分：一般選抜 後期日程） 文学部 人間関係学科 （科目名：集団討論）
面接の意図 （評価のポイント）	<p><b>1. 出題の背景・求める能力</b></p> <p>後期日程の試験科目である集団討論は、数人の受験生による与えられた討論テーマに基づいての討論である。テーマを設定した討論場面において、自分自身の見解をテーマに沿って論理的・独創的に表現できる能力、情報提供や意見調整など円滑なコミュニケーションを進める能力、集団の中で適切なかたちでリーダーシップを発揮していける能力などが求められる。</p> <p><b>2. 解説(解法)</b></p> <p>今年度の集団討論は、1 試験室につき受験者 6～5 名、3 つの試験室で同時に進行し、それを 3 回繰り返す形で進めた。各回に共通する 3 つの討論テーマを使用した。以下に各回のテーマごとに解説する。</p> <p><b>【集団討論 1 回目】</b></p> <p>解説：「パラリンピックの認知度を上げるためにはどうすれば良いか」が討論テーマである。パラリンピックに代表される障害者スポーツは、スポーツ、障害者福祉などの領域にまたがる総合的領域としてとらえることができる。また、パラリンピックの認知度を上げる手法には、社会学的観点も含まれており、このテーマを考えるにおいては、人間関係学科で必要とされる総合的な視点が必要になってくる。</p> <p>この集団討論では、このような多様な視点の意見が出せるか、出てきた意見を総合的に発展させて討論できるかが採点上の重要なポイントである。</p> <p><b>【集団討論 2 回目】</b></p> <p>解説：「なんのために学ぶのか」を討論テーマとした。この問題について、受験者は今まで意識するかもしれないかにかかわらず何らかのかたちで考えることがあり、受験者個々人で多種多様な意見があるのではないかと考えられる。今回の設問では、あえて包括的なテーマを設定し、受験者がそれぞれに考えた自由な視点で「学ぶ目的」を出してもらい、そこから討論の方向性をグループで探索できることも期待している。</p> <p>この集団討論では、受験者が自由な発想で意見が提示できるか、そこから討論の具体的な方向性を見いだせるか、討論を発展的に進めることができるかが、採点上の重要なポイントである。</p> <p><b>【集団討論 3 回目】</b></p> <p>解説：「普通とはなにか」が討論テーマである。「普通」という言葉は、</p>

普段何気なく使っているが、様々なニュアンスを持っている。また、それは抽象的な場合が多く、普段は心の奥に潜んでいて、言葉にすることがあまりないと思われる。この集団討論では、まず、こころの奥に潜んでいる「普通」の意味を思い起こし、どのような場面で使われるかなどを含めて、言葉で表現する努力が必要になる。それができれば、様々な方向へ掘り下げた討論が可能になるであろう。

「普通」について言葉でうまく表現できるか、さらにそこから、論点を見だし、掘り下げた討論とすることができるかが、採点上の重要なポイントである。

\*\*\*\*\*

➤ **受験生への情報提供**

普段の生活や社会の動きの中から問題点をみつけ、それを言葉にする練習をしておくことと集団討論の時に役立つと思います。また、それを友達と話し合ってみるのも良いと思います。